

5年生・6年生 していとしょ かんそうが 指定図書 (感想画)

本の題名・書いた人	あらすじ	本の表紙
<p>『妖怪コンビニで、バイトはじめました』 令丈ヒロ子/著 あすなろ書房</p>	<p>13歳の少年イズミが見つけたお店「ツキヨコンビニ」には、冷え性の方におすすめの“ボルケーノシリーズ”や、大人気の“エモーション・アイス”など、ふしぎな商品がいっぱい。コンビニなのに薄暗い、月夜のようなその店に集うのは、風変わりなお客さんばかり…そこには人外…つまり幽霊と妖怪専門のお店だった！</p>	
<p>『日向丘中学校 カウンセラー室』 まはら三桃/著 めばち/装画 アリス館</p>	<p>日向丘中学校は文字通り、日当たりのよい丘の上にある中学校。ここでカウンセラーとして働く谷川綾のところへ持ち込まれる相談ごとは、ちょっと変わったお悩みばかり。校舎のあちらこちらに出るといふ気配だけの人〈ゴウスケさん〉元教員で定年後に用務員をしている〈清二さん〉そしてカウンセラーの〈綾さん〉中学校のカウンセラー室に関わる三人(?)を軸に展開する連作短編小説です。</p>	
<p>『縄文の狼』 今井恭子/文 岩本ゼロコ/画 くもん出版</p>	<p>現代でも着々と宇宙旅行への準備をしている人がいる一方で、いまだに電気も水道も使わず生活している人がいます。昔からの伝統的な生活を当然のこととして続けている人々は、技術的には遅れているかもしれませんが、人間として劣っているわけではありません。縄文時代の遺跡から、犬との強い絆、多様性の尊重について考えさせられるお話です。</p>	
<p>『那木野、 伝説の森で』 西村さとみ/作 佐竹美保/絵 国土社</p>	<p>神主のおじいちゃんが亡くなって、おばあちゃんが一人で守っている那木野神社と那木野の森。神社の御神体とこの森には「大蛇の伝説」という悲しい言い伝えがあった。夏休みにやってきた優は、森で出会った不思議な少年ミチルと白い子犬のイツキとともに、森を脅かすものに立ち向かうことになり、この森と右に伝わる「大蛇の伝説」に巻き込まれていく。</p>	
<p>『幽霊屋敷 貸します』新装版 富安陽子/作 篠崎三朗/絵 新日本出版</p>	<p>季子たち一家が引っ越した庭付きのお屋敷。りっぱな家を格安で貸し出すなんて怪しい…季子は悪い予感がしていた。新居での夕食、ダイニングに現れたのは、なんとお婆さんの幽霊！「あなたたちがこの家に住むのにふさわしい人たちかどうか、たしかめにきた」という。明らかになるお婆さん幽霊の本当の願いとは・・・!?</p>	
<p>『小さいママと 無人島』 キャロル・ライリー・プリंक/作 谷口由美子/訳 松本春野/絵</p>	<p>「船が沈む！」オーストラリアへ向かう船の中で異変を察知した12歳のメアリは、妹のジーンと船内に残されていた4人の赤ちゃんとともに救命ボートに乗りこみ夜の海へ。そして流れ着いたのは小さな島…。絶体絶命な状況なのに、2人の少女は元気いっぱい赤ちゃんのお世話をする。一風変わった「少女版ロビンソン・クルーソー」。 文溪堂</p>	

